§4 事故時の対処

14時10分-15時40分 (90分) 担当：富田

●セッションの目標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1) 事故時の対処について知る（応急対応を含む）。

2) 事故発生時の対応を知る（対策を含む）。

●指導上のねらい1) 万が一事故発生した場合の、初期対処及び今後の対応について知る。

●セッション展開にあたっての留意点

1) 救急法の重要性について講義を行うが、救急処置方法等については、

関係機関での受講を促す。

2) 安全危機管理ハンドブックに沿って進める。

●準備品(資材・資料)

・プロジェクタ、スクリーン

・黒板orホワイトボード

・安全危機管理ハンドブック　(参加者各自持参)

・平成30年度版　そなえよつねに共済/賠償責任保険　手引き」

　(表紙/p1/p7/p14：参加者へ配布）

　(SAJ-HPからDL可能の旨を紹介する)

●他のスタッフへの依頼事項

・特にありません。

●ヒント

・そなえよつねに

●セッション構成と展開

・導入(10分)→展開(70分)→まとめ(5分)、計85分を目安に

・本セッションは講義が中心となるが、参加者と対話しながら進める。

　前のセッションの屋外活動後となる為、参加者の疲れに留意する。

**1. 導入 [10分]**

・ここまでのセッションを振り返る。

　　プログラム立案時の注意点

　　プログラム実施中の注意点を

・セッション目標を紹介する。

　　万が一事故が起きた時にどのように対処すべきかを考える。

　　事故の発生現場での処置と、団本部等隊活動支援部門の活動を考える。

・事故のリスクを許容できる範囲に留める、という事。

　　100%安全は不可能。

**2. 展開 [70分]**

・過去のボーイスカウトで起こった事故事例の話 [10分]

　　薪割り、ジャンボリーでの事例、集会/研修途中の交通事故、オリエンで行方不明

　　徳島の事故（BVSが水死）

　　暗夜行路で窒息事故

　　皆子山ハイキング事故

　　多数の事故、意外なところでの発生→想定外?

2-1. 万が一事故が起こった時の対応の流れ(HB p118) [5分]

・どんなに対策を講じたとしても、事故を完全に防ぐことはできない。

・万一、事故が発生した時には、現場で迅速かつ的確に対応する必要がある。

・初動が非常に大切となる。

※この部分はStep1でも講義、Step2では実習を行う事になるが、参加者に

　重要性の理解と、身に付けて貰う事を意図して繰り返す事になる。

・対応の流れ

　　冷静になる

　　何人か呼ぶ(複数人の支援が重要)

　　周囲の安全管理

　　救助要請の判断

2-2. 救急救命法の必要性(HB p119救急法の基本) [10分]

・団委員を含む全指導者が救急救命技能を身に付けている事。

　　スカウトも含め、救急法の研修プログラムは非常に大切。

　　団で成人指導者及びスカウトに救命講習(消防署等)への参加を促す。

　　必修と考える位で丁度良い。

・事故発生現場での救急対応

　　応急処置

　　躊躇なく119

　　救急法講習会

・救急処置方法については、この講習では扱わない。

　関係機関での受講を促す。

2-3. 緊急連絡、緊急連絡網(HB p123) [10分]

・参加者に問う：

　　活動に際し、緊急時の連絡先を指導者全員が共有しているか。

　　　万一事故が発生した時には、その場で連絡先を調べていては間に合わない。

　　活動場所に応じて緊急時の連絡先を事前に調べておく事。

　　　最寄りの医療機関、警察、消防署、等

　　　大きな活動の場合は事前に話しておく事も。

　　団内の連絡先は決まっているか。

　　→普段から緊急連絡の一覧を作成、共有しておく事。

　　県外での活動時に、確実に団本部に連絡できるか。

・現地は現場対応で手一杯、団で対策本部/保護者含めた対応も忘れずに。

　　団で対応をルール化、的確に対応ができる様にしておく。

　　HB p125対応表は常時携帯すると良い。

2-4. 事故発生時の対応(HB p124) [10分]

・団本部に連絡

　　団本部の対応←これに備えているか?

・事故発生時のフロー図(p.125)

・隊活動中の事故の対策図(p.127)

・BS班活動、VS自主活動中の事故発生時の措置 (p.128)

・行方不明捜索の順序(p.129)

・公式記録の作成(p.133)→発生時(受信時)から記録を取る。

　　警察等への対応、団本部や地区コミへの報告、恒久対策立案、等の為に

　　記録が重要になる。

2-5. 報告と記録(HB p133) [5分]

・参加者に問う：

　　事故が発生した時の記録/報告様式は決まったものがあるか。

・ハンドブックの「事故対応記録」「事故報告書」(p135-136)を説明する。

　　必ず事故の反省をし、再発防止策を考える。

　　後日の報告の為にも、時系列に事実を記録しておく事。

2-6. 保険(p134) [10分]

・先に挙げた徳島の事故では1.2億円の賠償責任訴訟。

・ボーイスカウトが入っている保険：そなえよつねに共済/賠償責任保険

　　表紙/p1/p7/p14を参加者へ配布。

　　賠償責任保険：対人、対物

　　加盟=加入

　　活動によっては+αで準備が必要。

　　入っていたら安心ではなく、団でよく吟味を。

2-7. フィールド、アクテビティ別の管理 [5分]

・活動毎に「フィールド別の安全管理」(HB p87)と

「アクティビティ別の安全管理」(HB p93）で確認するよう伝える。

※詳しくは安全危機管理Step1/Step2で行う為、ここでは要旨のみ。

**3. セッションのまとめと確認事項 [5分]**

1) 事故発生時の対応から報告様式までの要点を振り返る。

2) 現場での指示/指揮が大切である。

　　対処に当たっては、まず冷静になる事。

　　時間も大切なカギ。皆で一つの事をやるのではなく、分担を指示、

　　指揮する事も大切(救命救急処置をする人、連絡をする人等)。

　　即時に判断していかなければならない。

3) 普段から団において事故発生時の対策対応を周知検討しておく事。

　　(普段の訓練についてはStep2で体験する)

　　現場のみならず、団本部においても検討周知しておく事が大切である。

以上